



学長メッセージ

鹿児島大学学長 前田 芳實

鹿児島大学は、2016年度（平成28年度）から6年間、第3期中期目標・中期計画期間に入り、南九州及び南西諸島の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、「進取の精神」を備えた人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れた4つの基本目標に取り組んでいます。第一はグローバル化を視野に入れた人材育成、第二は大学の強みと特色を生かした学術研究の推進、第三は地域ニーズに応じた社会人教育や地域との連携強化、第四は機能強化に向けた教育研究組織体制の整備です。今日の地方における喫緊の課題は、人口減少に適切に対処し地方創生を推進することにあります。鹿児島大学は、鹿児島の特性や発展可能性を踏まえ、地域志向型人材の育成に資する中核的拠点として、「オール鹿大」で地域創生に取り組んでいます。この本学の目標に沿った事業の一つとして臨床心理学研究科の地域支援活動があります。

臨床心理学研究科は、2015年度（平成27年度）に導入した学術研究院制度において、法文教育学域臨床心理学系の教育組織として位置づけられています。2007年度（平成19年度）に当研究科を設置以来、臨床心理分野専門職大学院の責務である臨床心理士養成を行い、臨床心理士ならではの地域貢献の可能性を具現化するものとして、付設心理臨床相談室活動に加え、2010年度（平成22年度）に文部科学省特別教育研究経費プロジェクトにて採択された「地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな『実践型教育プログラム』の開発」事業を継続しています。これは教員と学生が協働して様々な地域に出向き、地域の課題への心理支援をデリバリー方式で行うという斬新な事業であり、本学が掲げる地域貢献の趣旨に合う活動として、事業終了後も経常予算化しています。本事業は、講演活動から開始され、発達障害児者への初期支援活動、地域専門家への支援、そして認知症高齢者をめぐる支援へと領域が広がっています。また国内外の講師を招聘した研修会を複数回開催し、学生及び社会のニーズに応える活動を実践しています。これらは、本学並びに臨床心理学研究科の独自性が発揮されたものであると同時に、全国の臨床心理士養成大学院のリーダー的存在である臨床心理学研究科の教育的根幹となりうると期待されるものです。

今後も、本事業の活動を通して、地域貢献と国際的視野の両方を兼ね備えた視点を学生とともに育み、地域の皆様の心の健康に寄与できることを心から願っています。



研究科長メッセージ

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科長
プロジェクト統括 中原 睦美

臨床心理学研究科は、2007年（平成19年）4月に臨床心理分野専門職学位課程として臨床心理士養成を主眼として設置され、目指す人材育成のひとつに「地域文化を理解し支援できる人材養成」を挙げています。これに即して付設心理臨床相談室活動を実践するに加え、2010年度（平成22年度）に採択された文部科学省教育研究経費プロジェクト「地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな『実践型教育プログラム』の開発」事業に着手し、事業終了後も2014年度（平成26年度）からは大学から経常経費化を承認いただき活動を継続して参りました。

この成果は、日本心理臨床学会にて毎年発表しております。今年度は認知症高齢者支援の領域で、高齢者の「私のアルバム」作成を通じた関わりを通し、地域貢献と学生教育を繋ぐ実践内容を検討した内容にて通算11回目の発表を行いました。また、年度ごとに報告書を発行し、研究科付設心理臨床相談室紀要にも7本まとめるなど積極的に公開して参りました。本事業は、デリバリー方式の地域支援活動という特徴をもち、鹿児島大学の第3期中期目標・中期計画に掲げる『南九州及び南西諸島の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、「進取の精神」を備えた人材を育成する』と合致するものです。学生の参加内容、教員の講演会等への参加陪席から始まり、現在では、発達障害児の初期支援や発達検査の実施、認知症高齢者支援に領域が広がっております。さらに、本事業を学生教育の一環としてカリキュラムに取り込むべく授業との連携を模索しております。

今回の報告書は、2016年度（平成28年度）における主な活動をまとめたものです。第1章の事業の概要から始まり、第2章は授業と連携した地域支援活動の報告2編、第3章はグローバルな視点に立った地域支援教育・研修の報告3編、第4章は地域支援活動の実際として今年度の活動実績及び成果の公表、そして、まとめの最終章という構成になっております。読者の皆様にはご一読の上、ご感想やご意見をお寄せいただけますと幸いです。